

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学

中期目標期間（平成30年～令和5事業年度）の

終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績

に関する項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和4年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	<b>S</b> 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、25項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②平成30年度から新たにスタートした「アートマネジメントプログラム」については、全学科の学生が受講し、学科の枠を超えた新たな学びの場となっていること。
- ③進路希望調査を複数回行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で変化した就職活動に対応したオンライン面接への対応など進路指導を充実させることにより、就職内定率、進学合格率とも中期目標を達成する見込みであること。
- ④教員が自治体の各種委員に就任し、専門家の立場から助言を行うとともに、教職員と学生が県内各地で様々な活動を行いながら、地域とともに課題の解決に向けた取り組みを行っていること。また、大分県芸術文化スポーツ振興財団や自治体等と連携し、芸短フェスタなどのイベントで県民が芸術文化に触れる機会を創出していること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- ・平成30年度から新たにスタートした「アートマネジメントプログラム」については、全学科の学生が受講し、学科の枠を超えた新たな学びの場となっている。
  - ・各学科においてディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの点検検証とルーブリックによる学修成果の把握方法についての検証を継続して行い、履修指導等に活用する。
- 教育の実施体制
- ・各学科において、カリキュラムマップを活用するとともに、カリキュラムマップがカリキュラム・ポリシーを反映しているか、学習内容と到達目標に合致しているかについて常に点検し、評価を行う。
  - ・社会情勢の変化や教育ニーズを常に把握しながら、新たなネットワーク開拓を含め地域等との一層の連携を図りながら、学生に対し実践を通じた学修活動の場を提供する。
  - ・全学科において、ルーブリック等を活用した成績評価基準モデルの作成をするとともに、教職員の資質向上と教育実施体制の充実に向け、FD・SD活動を推進する。

○学生への支援

- ・学生支援について情報提供を行う体制を整え、学生からの経済面、心理面からの相談に丁寧に対応するとともに、学生ニーズに対応したハード、ソフト両面からの支援を行う。
- ・進路希望調査を複数回行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で変化した就職活動に対応したオンライン面接への対応など進路指導を充実させる。
- ・障がいのある学生及び社会人など、特に配慮が必要な学生からの希望を聴き取り、合理的配慮及び適切な支援を行う。

○地域社会への貢献

- ・県民ニーズ把握のため、受講者アンケート調査を実施しながら、オープンカレッジを開講する。
- ・教員が自治体の各種委員に就任し、専門家の立場から助言を行うとともに、教職員と学生が県内各地で様々な活動を行いながら、地域とともに課題の解決に向けた取り組みを実施する。
- ・大分県芸術文化スポーツ振興財団や自治体等と連携し、芸短フェスタなどのイベントで県民が芸術文化に触れる機会を創出することにより、中期目標を達成する見込みである。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
教育	12			3	9
研究	6			2	4
社会貢献	6			3	3
その他の目標	1			1	
合計	25			9	16

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○中期計画の達成は問題ない。

○アートマネジメントプログラムも4年目を迎え定着している。更なるレベルアップを図ってほしい。

○研究費特別枠等、若手教員の研究サポート体制の改善に努めてほしい。

- 就職率・進学率は引き続き高水準を維持してほしい。
- 地域貢献についてもしっかりと根付いている。
- アートマネジメントプログラムが定着化し、学科の枠を超え新たな学び場になっている。効果を上げていることは素晴らしい。
- 縦割りになりがちな学科・コースを横断的に俯瞰する全学的なグランドデザインや将来構想が欠かせない。そのために必要な教員個々の業績評価や大学全体としてのエビデンス（根拠資料）作成や公開化・共有化＝「見える化」が必要であり、令和5年度までの中期計画の達成へ鋭意努めていただきたい。

## Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### (1) 評価結果

	S	A	B	C	D
評価結果	特筆すべき 進行状況	計画どおり	おおむね 計画どおり	やや遅れて いる	重大な改善 事項あり

### (2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②理事長兼学長のもと、幹部会議や学内委員会のマネジメント機能の強化を図り、迅速かつ機動的な意思決定を行うとともに、教員の採用については、学生や時代のニーズを踏まえて教育研究分野を決定し採用を行っていること。
- ③予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、重点事項を定め、着実に推進していること。

### 【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 運営体制
  - ・理事長兼学長のもと、幹部会議や学内委員会のマネジメント機能の強化を図り、迅速かつ機動的な意思決定を行っていること。
  - ・学内内部統制を図る体制を整備するとともにネットワーク整備を行い、安全性を確保しながら情報メディアを用いた事務改善を推進していること。
- 人事の適正化
  - ・定年退職等に伴う教員の採用については、学生や時代のニーズを踏まえて教育研究分野を決定し採用するとともに、事務職員を外部研修に参加させ人材育成を行っていること。
  - ・教職員対象の内部研修実施のほか、外部研修への積極的な参加と成果の共有、教員評価制

度を活用したモチベーション向上に取り組んでいること。

○業務の選択と集中

- ・予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、重点事項を定め、着実に推進していること。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
運営体制	3			3	
人事の適正化	3			2	1
業務の選択と集 中	1				1
合 計	7			5	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

- ※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○中期計画の達成は問題ない。

○引き続き、理事長・学長のリーダーシップによる業務運営をお願いしたい。

○令和5年度までの中期計画に関しても「理事長兼学長のもと、幹部会議や学内委員会のマネジメント機能の強化を図り、迅速かつ機動的な意思決定を行う」と記されており「強化」「迅速」「機動的な意思決定」などがわかりにくい。

### Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

#### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### (2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②全教職員への経費節減の周知や夏期大学閉鎖による光熱水費の節減や、省電力機器の導入、管理的経費の分析と抑制策の検討などを行っていること。
- ③大学独自の研究費特別枠を設定し、外部研究資金獲得に向けた準備研究を支援するとともに、科研費を申請する教員を事務局職員が支援し、外部競争資金や受託事業の獲得に取り組んでいること。

#### 【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 事務等の効率化及び経費の抑制
  - ・全教職員への経費節減の周知や夏期大学閉鎖などの取組を行う。
  - ・省電力機器の導入や管理的経費の分析と抑制策の検討実施。
- 自己収入及び外部資金の獲得
  - ・新型コロナウイルス感染防止対策を実施しながら、公開講座や新たに導入した個人レッスンチケット制等の広報に努め、自己収入の拡大を図る。
  - ・整備が完了した施設の貸出基準を整備し、授業に支障のない範囲で大学施設の適正な貸し出しを行い、自己収入の確保に努める。
  - ・大学独自の研究費特別枠を設定し、外部研究資金獲得に向けた準備研究を支援するとともに、科研費を申請する教員を事務局職員が支援し、外部競争資金や受託事業の獲得に取り組む。
- 資産の適正管理及び有効活用
  - ・新たに整備した資産（土地、建物、設備）及び資金を適正に管理する。
  - ・安全・防犯対策を講じ、感染防止に配慮しながら施設を開放し、地域社会に貢献する。
  - ・芸短ギャラリーで美術科収蔵作品を展示するなど、大学の研究資源を有効に管理・運用するほか、知的財産について積極的に公開する。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
事務効率化 ・経費抑制	2			2	
自己収入・外部 研究資金の獲得	3			2	1
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合 計	8			7	1

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 中期計画の達成は問題ない。
- 無駄な経費の削減（抑制）は地道な活動が要求される。引き続きの努力をお願いしたい。
- 今後も施設の貸出、外部資金の獲得に取り組み、財務内容の改善を図ることを期待する。
- 学生納付金や公開講座講習料は、受益者負担及び大学経営安定化の観点から適宜見直しを行うことを示すが、不幸にも令和2年度より広がった新型コロナウイルスの感染防止対策のため、遠隔のオンライン講座のみが実施できる厳しい運営環境の中で、今後の公開講座開設や新たに導入した個人レッスンチケット制等の広報に努め、参加者・受講生を確保しながら大学全体の自己収入の拡大を図ることにより、中期目標の達成が見込まれる。

#### IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

##### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

##### (2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、3項目のすべてがⅢ（順調に実施している）であること。
- ②令和4年度に予定している大学基準協会による認証評価及び結果公表に向けて、自己点検・評価を行うなど、滞りなく準備を進めていること。
- ③法人運営の透明性を高め、県民に対する説明責任を果たすため、計画や財務運営状況等の法人情報を毎年公開していること。
- ④マスメディア等の様々な媒体を活用し、積極的な広報を展開したこと。

##### 【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
  - ・自己点検・評価を行い、令和4年度に大学基準協会による認証評価を受け、結果を公表する。
- 情報公開や情報発信の推進
  - ・法人運営の透明性を高め、県民に対する説明責任を果たすため、計画や財務運営状況等の法人情報を毎年公開している。
  - ・年4回の広報誌発行やマスメディアを活用した積極的な広報に努めるとともに、芸短フェスタイベント等を実施し、ホームページやSNSによるニュース等の投稿で、本学の魅力をアピールする。

##### 【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	1			1	
情報公開 ・情報発信	2			2	
合計	3			3	

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○中期計画の達成は問題ない

○これからもホームページやSNSを活用して大学の魅力をアピールしてほしい。

## V その他業務運営に関する目標

### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

### (2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、6項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②令和3年3月に予定通りキャンパス整備事業を完了したこと。また、整備した施設・設備を適正に管理・運営するほか、新たな教育需要に対応するための設備を計画的に整備する予定であること。
- ③教務学生システムの情報セキュリティ上の点検や、オンライン授業・会議で用いるツールの安全性確認に加え、操作方法や情報セキュリティに対する意識向上にむけた研修等を継続的に開催していること。

### 【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
  - ・令和3年3月に予定通りキャンパス整備事業を完了。
  - ・整備した施設・設備を適正に管理・運営するほか、新たな教育需要に対応するための設備を計画的に整備する。
  - ・オンライン授業に必要な設備の設置のほか、施設・設備の計画的な整備や日常的な修繕を適宜行う。
- 大学の安全管理
  - ・「防災・業務継続計画」に基づき、危機管理における体制整備、毎年度の全学を上げた防災訓練の実施、新型コロナウイルス感染症に対応するほか、地域の防災・防犯に協力する。
- 情報セキュリティの確保
  - ・教務学生システムの情報セキュリティ上の問題等について点検、オンライン授業や会議で用いる Zoom や C-learning の安全性を確認するとともに、操作方法や情報セキュリティについて学生や職員に周知する。
- 人権尊重の推進
  - ・全教職員を対象とした研修の実施、外部研修への参加及び情報共有、その他あらゆる機会を通じて、全教職員の意識の向上を図り、ハラスメントの未然防止に全力を注ぐ
  - ・人権関係科目の開講とサービラーニングにより人権意識の向上を図る。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
施設・設備の 整備と活用	2			1	1
安全管理	1				1
情報セキュリテ イ	1			1	
人権尊重の推進	2			2	
合 計	6			4	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 中期計画の達成は問題ない。
- これからも研修等により、教職員だけでなく、学生にも危機管理の意識付けを実施してほしい。
- 今後も施設・設備の計画的な整備や日常的な修繕を適宜行うことにより、令和5年度までの中期計画の達成が見込まれる。

## 2 全体評価

### 評価結果と判断理由

#### 評価結果

全体として中期計画の達成見込みが良好である。

#### 判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、平成30年度から新たにスタートした「アートマネジメントプログラム」については、全学科の学生が受講し、学科の枠を超えた新たな学びの場となっていること。また、進路希望調査を複数回行うとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で変化した就職活動に対応したオンライン面接への対応など進路指導を充実させることにより、就職内定率、進学合格率とも中期目標を達成する見込みであること。
- ③ 「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」に関して、理事長兼学長のリーダーシップのもと、幹部会議や学内委員会のマネジメント機能の強化を図り、迅速かつ機動的な意思決定を行っていること。また、教員の採用については、学生や時代のニーズを踏まえて教育研究分野を決定し採用するだけでなく、教職員対象の内部研修実施のほか、外部研修への積極的な参加と成果の共有、教員評価制度を活用することでモチベーション向上に取り組んでいること。
- ④ 「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」に関して、全教職員への経費節減の周知や夏期大学閉鎖による光熱水費の節減や、省電力機器の導入、管理的経費の分析と抑制策の検討などを行っていること。大学独自の研究費特別枠を設定し、外部研究資金獲得に向けた準備研究を支援するとともに、科研費を申請する教員を事務局職員が支援し、外部競争資金や受託事業の獲得に取り組んでいること。

＜委員会からのコメント＞

- 全体として、中期計画は順調に実施されており、中期計画の達成は問題ないと評価する。  
・WITHコロナが常態化する中、これまでの対コロナ対策を踏まえて、中期計画の達成に向け努められたい。
- アートマネジメントプログラムはしっかりと根付いており、中期計画の達成は問題ない。
- 就職率・進学率ともに極めて高水準。中期計画の達成は問題なし。
- 県立大学として地域への貢献もしっかりとなされており、中期計画の達成は問題ない。
- 創立60周年を迎えキャンパス整備も完成され、これから一層大学の魅力アップに取り組んでほしい。
- 令和5年度までの中期計画の達成へ、教員個々の業績評価や大学全体としてのエビデンス（根拠資料）作成や公開化・共有化＝「見える化」が必要。一時的には教員の先生方の負担を増やしてしまうものの、今後への大学全体の健全な運営や、地域課題や時代の潮流の変化に適切に対応するための研究・教育の根幹をなすものであるところから、鋭意努めていただきたい。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等 の質の向上	<b>S</b> 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	<b>A</b> 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり